

総額 937.2万円の 助成決定 10団体

「自立した持続可能な地域社会創造助成事業（以下、地域社会創造助成事業）は、2013年度から一般財団法人新潟ろうきん福祉財団がスタートさせた助成事業です。

新潟県内における地域おこしや地域資源を活用したコミュニティビジネスの振興などを通じて地域の暮らしを支え、伝統文化を維持し、農地の管理や森林の保全を通して自然環境を守るなど、地域社会創造を推進する地域住民団体、農業法人等の企業、自営業、NPO等市民活動団体を資金面から支援することを目的にしています。助成金額の上限は、200万円、最長3年間（3年間の上限助成金額500万円）の継続助成を受けることが可能な大型助成事業となっています。

2017年度地域社会創造助成事業の応募団体は25団体で、このうち10団体（団体名、金額、内容は裏面詳細）を採用いたしました。本助成事業は、セミナーなどを含む4つの事業で構成され、地域づくりと仕事おこしを支援しています。

■実績累計

| | 応募団体 | 助成団体 | 助成金額 |
|-------------|------|------|-----------|
| 2014年度までの累計 | 53 | 20 | 2,570.2万円 |
| 2015年度 | 32 | 11 | 1,207万円 |
| 2016年度 | 20 | 11 | 1,087.8万円 |
| 2017年度 | 25 | 10 | 937.2万円 |
| 総累計 | 130 | 52 | 5,802.2万円 |



選考委員による書類選考(8月10日)、面接選考会(8月22日)を経て、助成先を内定。



地域づくりに役立つ知識の習得と、参加者相互の情報交換・ネットワークづくり、並びに当財団事業の説明・周知を図ることを目的に毎年春に県内5地区で開催する講座「にいがた旬塾」。



地域づくりの活動や事業運営に係る実践的なコーディネート技術を学ぶ機会を提供する「地域づくりコーディネーター養成講座」は、本助成の採択団体に参加特典(1団体につき2名まで受講料免除)を設け、毎年秋に開催。



助成団体の成果報告会とあわせ、地域づくりの実践者や見識のある専門家の講演会、参加者相互のネットワークづくりを目的に、毎年秋に開催する「地域づくりセミナー」。

(一財)新潟ろうきん福祉財団は、〈新潟ろうきん〉が創立30周年を記念して1983年に設立した財団です。当財団の事業を通じて〈新潟ろうきん〉の社会的役割の発揮、社会貢献活動として広く県民の暮らしの向上と福祉の増進に役立つことを目的としています。自立した持続可能な地域社会創造事業の他、NPO等助成事業、高校生奨学金給付事業、大学生奨学金給付・貸与事業、文化講演会等開催事業、にいがたワーク&ライフフォーラム・セミナー開催事業、調査・研究事業、ライフプランセミナー開催事業等に取り組んでいます。

■選考委員

◎=選考委員長 ○=副選考委員長

(五十音順・敬称略)

| 氏名 | 所属団体等 |
|---------|-----------------------|
| 大滝 聡 | (特非)まちづくり学校 代表理事 |
| ○ 金子 洋二 | 地域と組織のデザイナー スタジオ・ファイル |
| 桑原 幸子 | (特非)魚沼交流ネットワーク 副理事長 |
| 笹川 克年 | 新潟日報社 報道部 |
| 佐藤 春夫 | 新潟グリーンツーリズムセンター 元所長 |
| ◎ 寺尾 仁 | 新潟大学 准教授 |
| 中村 昇 | (一財)新潟ろうきん福祉財団 元事務局長 |
| 三浦 絵里 | (特非)かみえちご山里ファン倶楽部 |

助成団体一覧

| 団体名 | 所在地 | 助成額 (万円) | 助成金使 途 |
|----------------------------|------|--------------|---|
| 岩沢アチコタネーゼ | 小千谷市 | 178.0 | [地域コミュニティビジネス活動事業] (継続事業3年目) 農家レストラン、農家民宿のコミュニティビジネスを更に推進すべく、農家レストランに隣接するホールを整備し、ここを拠点として駅前の賑わい創造、持続可能な経済活動と新たな雇用の創出を目的とする。 |
| 特定非営利活動法人 平丸スゲ細工保存会 | 妙高市 | 160.0 | [スゲ細工製作施設の整備と製作者育成事業] (継続事業2年目) スゲ細工創作館の設備の充実を図り、宿泊研修やゲストハウスとしての機能を持たせ、外部人材の受入や多くの人の事業への関わりを促す。①宿泊施設やインターンシップの受入②地域資源を活用した収入源確保による製作者の自立支援 |
| ひゃくいちねん会 | 柏崎市 | 154.0 | [移住者獲得事業] 高齢化、過疎化が進む小清水集落を100年後まで存続させるためには人口の維持、増加が必要であり、移住者を受け入れることが有効と考えます。集落への訪問者が長時間滞在できて土地の良さを味わえる、また移住の前段として「お試し移住」ができる宿泊施設を作ります。 |
| 雪の日舎 | 十日町市 | 100.0 | [農業と保育をつなぎ、里山にはぐくみびとのふるさとをつくる] 集落の蔵を改修し、宿泊施設(農家民宿申請。赤ちゃん・子ども連れ専用の宿)とする。宿では、地域の高齢者によるこどもの見守り保育、地域内での育児ツーリズムプログラムの提供(産後の骨盤矯正整体、ヤギとのふれあい、バナ林ピクニック、離乳食・栄養講座、ママのための起業塾など)を実施する。 |
| 特定非営利活動法人 里山クリーン新潟 | 阿賀野市 | 100.0 | [村杉における6次産業化による地域づくり事業] (継続事業2年目) 6次産業化を目標として、昨年10月より地域社会創造助成を頂き、乾燥機と活動作業施設の建築に着手。平成28年4月に完成(一部残し)。本格的活動の第一歩が始動しました。今年度は、加工原料の確保に努め、作業効率を上げるための機械化と原料を洗浄する井戸水を水道水と同一の水質を確保する設備を整える事業とします。 |
| だんだんど〜も 只見線沿線元気会議 | 魚沼市 | 70.4 | [沿線地域と只見線を繋ぐ観光地域づくり事業] 2020年東京オリンピック開催年を目途に、全線復旧が決定した。関東圏から只見線に乗って東北圏への周遊ルートが完成する。この年度に向けて「JR只見線」を活用した地域の活性化を図るために、只見線周辺エリアの観光魅力向上を狙い、地域住民が参加する旅行商品の造成を軸とした「沿線地域と只見線を繋ぐ観光地域づくり」を目的とする。 |
| 特定非営利活動法人 かみえちご山里ファン倶楽部 | 上越市 | 66.0 | [ふたつの手業(山村生存技能・打刃物技能)の連携による実用刃物「猫又印」ローカルブランドの開発] (継続事業2年目) かつての野鍛冶が作っていた実用性に優れた「鍛冶物」を模範として開発した「一生使える実用刃物(猫又印)」の販売促進ならびに使用者の開拓を通じて、「里山文化の醸成」と「地域性が色濃く表現されたものづくりの復活」を目指す。 |
| NPO法人 支援センターあんしん | 十日町市 | 50.0 | [雪中グリーン就労支援事業] 屋外作業(力仕事)に適している障がい者8名の豪雪地における年間継続可能な作業・就労支援活動の拠点造りを行い就労の多様化をはかる。合わせて雨天時・積雪期間のドライスペースとして多目的に活用し、音に敏感な障がい者が落ち着ける空間としても利用しながら新たに水耕栽培技術の習得並びに除雪作業を訓練し新たな就労機会を得る。 |
| 特定非営利活動法人 しごとのみらい | 妙高市 | 50.0 | [地域のリソースを生かして労働者のストレスを改善し、健やかに働ける社会を作るプログラム開発プロジェクト] (継続事業2年目) 労働者のストレスが社会問題になっている。妙高市の豊かな自然や農業などのリソースを生かし、職場のコミュニケーションやメンタルヘルスを改善するための研修プログラムを研究・開発する。 |
| 東山五人杵搗き餅保存会 | 小千谷市 | 8.8 | [餅搗き保存活動による地域活性化事業] (継続事業2年目) 地域から、さらに餅搗き保存活動に携わる人を増やすために、広く募集して他の地域活動団体を視察研修に行く。類似する地域おこし活動や、課題を抱えている団体の話を聞き、将来も継続していく組織づくりの参考にする。事前に会員で集まり、視察先の選定会議を行う。 |
| 合 計(10団体) | | 937.2 | |